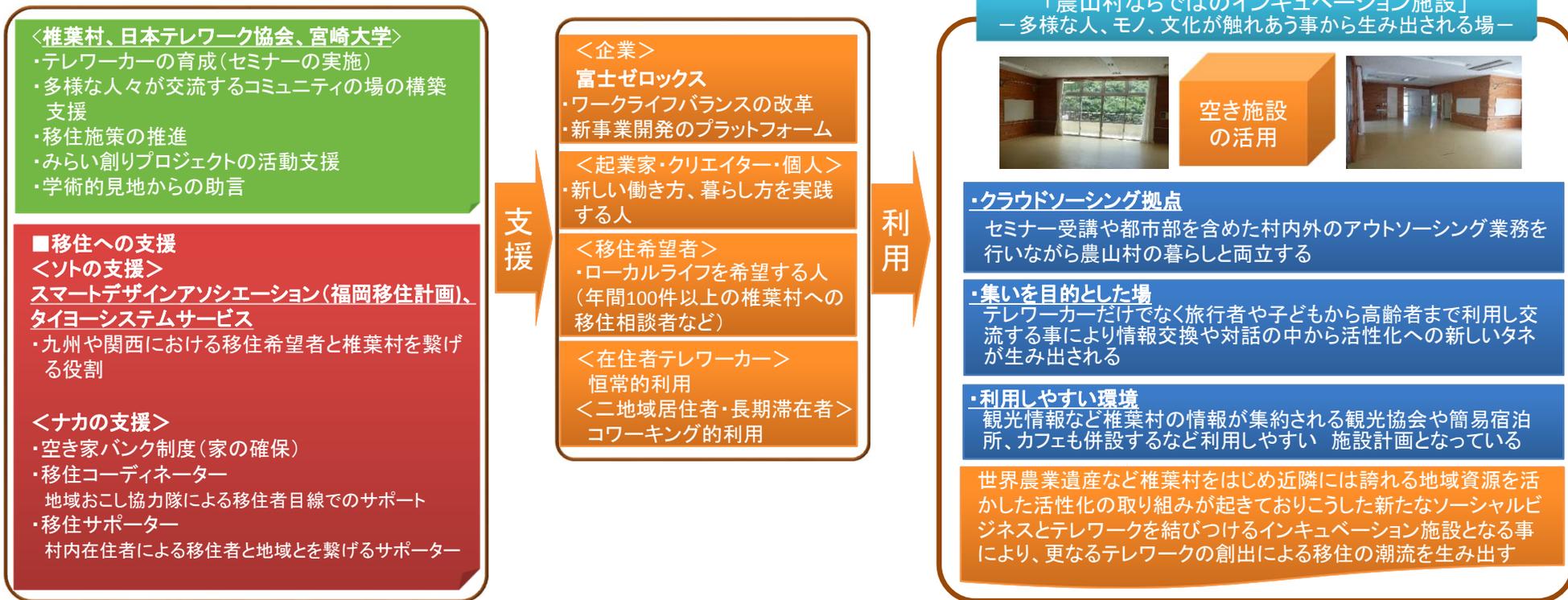


平成29年度予算ふるさとテレワーク推進事業  
**椎葉村ふるさとテレワークみらい創りプロジェクト事業**  
 宮崎県椎葉村（宮崎県椎葉村）

コンソーシアム名	椎葉村みらい創りプロジェクト共同事業体				
コンソーシアム参加機関名 (下線は代表機関)	<u>宮崎県椎葉村</u> 、(株)スマートデザインアソシエーション、(株)タイヨーシステムサービス (社)日本テレワーク協会、富士ゼロックス(株)、宮崎大学				
地方移動者数	従業員：2人	個人：5人	地元ワーカー数	従業員：0人	個人：13人
事業概要	豊かな自然環境や日本の原風景である暮らしが今なお残る椎葉村において福祉施設跡の遊休施設を改装し、多様な人々との交流や自然と共に生きている暮らしの体験を得ることにより、農山村ならではのインキュベーション施設としてのモデルを目指す。				

～一過性ではない！人の流れを作る～ 椎葉流ふるさとテレワークみらい創りプロジェクト



平成29年度予算ふるさとテレワーク推進事業  
椎葉村ふるさとテレワークみらい創りプロジェクト事業  
宮崎県椎葉村（宮崎県椎葉村）

## ■整備した拠点の概要

- 名称：椎葉村テレワークセンター      ○住所：宮崎県東臼杵郡椎葉村大字下福良1829番地57
- 利用対象者：富士ゼロックスなどの企業、村内テレワーカー、村外からのフリーランス      ○収容人数：35名
- 整備拠点で可能な業務

インターネットを介した一般的なテレワーク業務に加え、大画面プロジェクションシステムや小型プロジェクターによる遠隔会議やプレゼン、ミーティングに対応。  
また、プロダクション複合機によるクリエイターなどの色彩のこだわりなどにも対応でき、自動プレス機の活用などにより、地元ワーカーがオリジナルグッズの製作なども行える。



受付・管理事務所  
（収容人数1名）



コンパースペース  
（収容人数2名）



コワーキングスペース①  
（収容人数8名）



コワーキングスペース②  
（収容人数18名）



遠隔会議スペース  
（収容人数6名）

## ■整備完了後の取組内容の概要

施設整備を行うと同時に、地元ワーカーの育成や、椎葉村への村外への移住とテレワークを繋げるWEBでのPRを行うなど、利用者と移住者の確保に向けた取り組みを平行して着手している。

テレワーカー育成セミナーには9名が受講完了し、セミナー後もライティングの仕事の獲得に向けて意欲的である。加えて導入機器を活用したオリジナルグッズ政策にも取り組んでおり、既にいくつかの試作品も完成させている。

また、当該地は多様な交流が生まれる拠点施設として整備予定であり、テレワークだけでなく、秘境ならではの民俗文化や暮らしの中で残されてきた他では失われている知恵、人などと触れる事で新たな発見が生まれるインキュベーション施設として施設計画に取り組んでいる。

目標：①当該施設利用者を年間延べ600人

②当該施設を利用した地元テレワーカー数を平成31年度末までに10人を育成

③当該事業を通じた移住者数が6人

④①事業以上の本拠点利用における新たなビジネスの創出

# (参考①) 整備した拠点について



コワーキングスペース①  
デスク、椅子



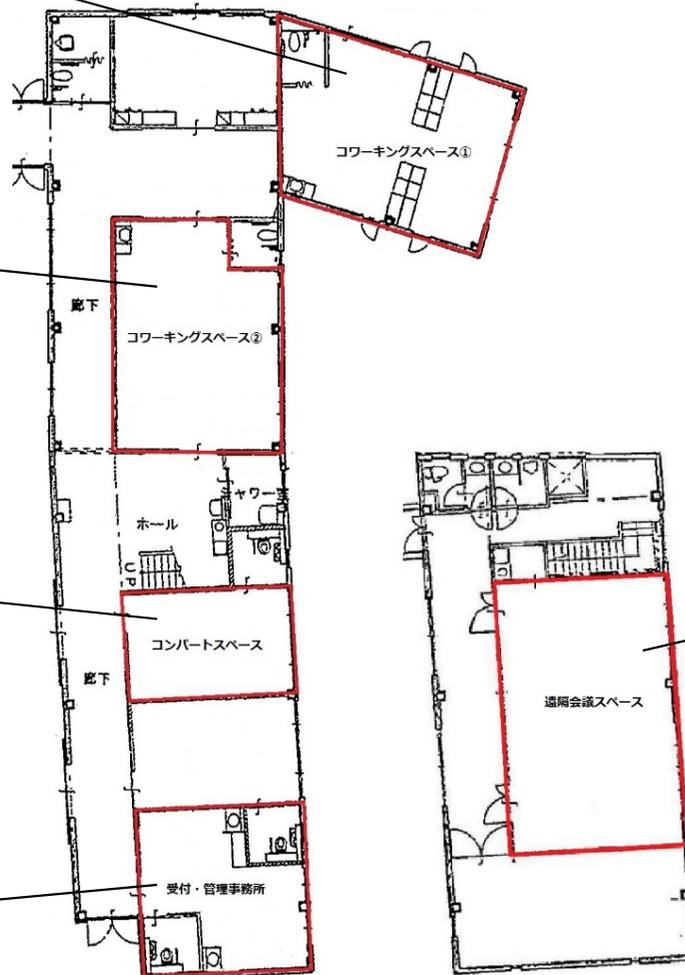
コワーキングスペース②  
ミーティングテーブル、椅子、  
ロビーチェア、ローテーブル、  
本棚、ホワイトボード



コンパートスペース  
デスク、椅子



受付  
プロダクション複合機、キャ  
ビネット、自動プレス機、貸  
出機器(PC等)



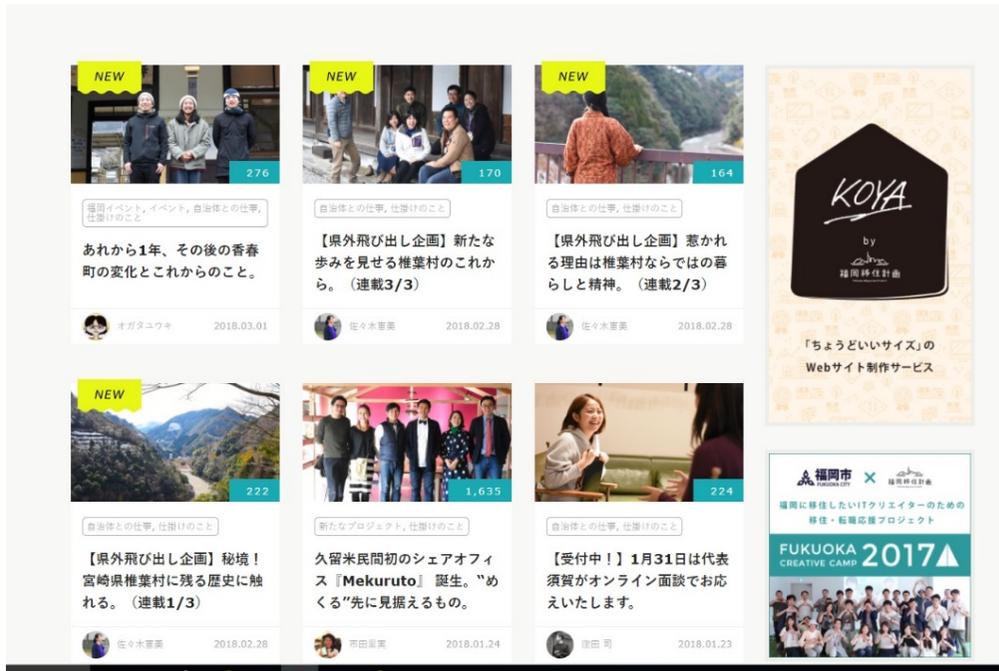
外観

遠隔会議スペース  
大画面プロジェクションシステム、  
ミーティングテーブル、椅子、  
AVテーブル



# (参考②) 整備完了後の取組内容について

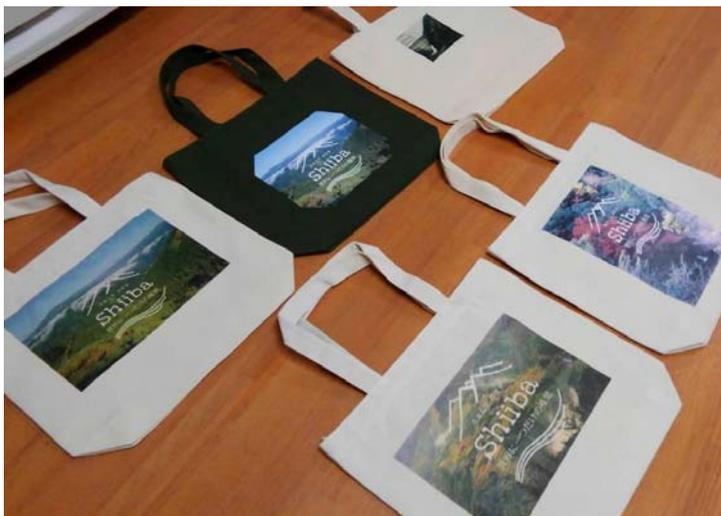
## 福岡移住計画HPでの発信



## テレワーカー育成実践セミナーの様子



## 導入機器を活用したグッズ試作



テレワーカー育成の地域ディレクターである元SEの地域おこし協力隊が当施設の管理を行いながら、引き続き地元ワーカーの育成や当施設の利活用に取り組んでいき、自立したテレワーカー団体の構築や、ソトの人々が訪れる仕掛けを行っていく計画である。

## (参考②) 整備完了後の取組内容について

若年層の人口減少対策として、新たな働く場の創出が必要。  
また、地方移住希望者は半農半Xのニーズが高く、神楽や焼畑など自然への畏敬の念を大事にする暮らしを守ってきた椎葉村へ関心を寄せる人は多い。

こうした事からテレワークは椎葉村として重要な施策である。  
単にテレワーク環境を整えるだけではなく、行く価値のある場を創っていく事が重要である。

そのために、保育施設、公園、図書機能などを含む複合拠点施設を整備する事となっているが、そこに人々が集い、学びあえ、新たな何かを生み出せるインキュベーション施設の構築を目指す。

